

2025
Fire Fighting Annual Report

消防年報

令和6年版



十日町地域広域事務組合
十日町地域消防本部・署

(令和7年度刊行)

十日町地域広域事務組合組合章



組合章の由来

円中央の三つのデザインは、事務・事業の「J」、十日町の「T」、地域の「T」のアルファベット頭文字を表し、事務・事業は管内市町ですべき一部事務を当組合で処理することを意図しています。

また、楕円は地域がスクラムを組んで連携強化を図り、外側の円は地域住民生活の安全と豊かさを守ることを表現したものです。

十日町消防エンブレムマーク



エンブレムマークの由来

エンブレム中央上部に雪の結晶を配し、消防の象徴であるホースとロープ及び炎を周囲に配しました。

雪の結晶は、豪雪地帯である十日町広域の旧6市町村を意味し、その周囲をホースとロープで囲むことにより、地域を守る消防をアピールしています。またロープの色は、十日町市に出土した国宝の縄文式土器の縄の茶色とし、黄色の下地はコシヒカリの稲穂をイメージしたものです。

消防、救急をはじめ、災害の形態が多種多様化している中、このエンブレムをつけることにより、多種多様な災害や課題に対して、団結力を強め、積極的に対応していく組織となるよう平成20年4月1日に制定されました。



岩手県大船渡市山林火災に伴い
緊急消防援助隊出動

(令和7年2月27日～3月10日)



新潟県消防救助技術大会において
訓練成果を披露する十日町消防の隊員
(ロープブリッジ救出)



耐熱服を着装しての放水訓練

この消防年報は、令和6年中の十日町地域広域事務組合の主要な消防業務と現有消防力全般にわたる事項を収録し、消防状況の逐年傾向を把握するため、特に必要なものについては、過去にさかのぼり累年表を加え編集しました。

各表は、主に令和6年1月から令和6年12月までの1年間を統計し、これによらない表や単位については、必要に応じて各表の上部に記載しました。

INDEX

もくじ

十日町地域広域事務組合の位置・地勢……………	4
面積・人口・世帯数……………	4
十日町地域広域事務組合消防のあゆみ……………	5
十日町地域広域事務組合消防災害年表……………	11
歴代管理者・消防長……………	14
十日町地域消防本部の機構図……………	15
消防本部・消防署・分署配置図……………	16

【 総 務 編 】

1 消防庁舎等の現況……………	17
2 消防費予算状況……………	17
3 過去5年間の消防費決算状況……………	18
4 人口、世帯に対する消防吏員、 団員、ポンプ車の割合 ……	18
5 基準消防力と現有消防力の比較（常備分）…	18
6 消防職員の階級別配置状況……………	19
7 消防職員の階級別勤続状況……………	19
8 消防職員の階級別年齢調……………	19
9 消防職員の消防学校等教育受講状況……………	20
10 消防職員採用等の状況……………	20
11 消防職員退職状況……………	20
12 給与及び勤務の状況……………	20

【 警 防 編 】

1 消防機関の出動状況……………	21
2 市町別救助出動状況……………	21
3 消防職員一般教育、訓練実施状況……………	22
4 消防本部・署・分署車両等配置状況……………	24
5 消防ポンプ車等現有状況……………	25
6 緊急消防援助隊登録状況……………	25
7 消防・救急応援協定締結状況……………	25
8 特殊機械器具現有状況……………	26
9 消防水利市町別設置状況……………	28
10 公設消火栓管径別設置状況……………	28
11 火の見やぐら、消防器具置場設置状況……………	28
12 令和5年度主な施設等整備状況……………	29

【 予 防 編 】

1 火災総括表……………	30
2 市町別火災発生件数……………	30
3 月別火災発生状況……………	31
4 過去5年間の時間帯別火災発生状況……………	31
5 過去5年間の原因別火災発生状況……………	32
6 過去5年間の火災による死傷者の数……………	32
7 過去5年間の火災による損害額の状況……………	32
8 過去5年間の火災発生状況……………	33
9 建築確認申請用途及び建築通知、 工事別処理状況……………	34
10 消防用設備等（特殊消防用設備等）着工届・ 設置届受理状況……………	35
11 防火対象物の状況（棟数）……………	36
12 中高層建築物の現況（防火対象物）……………	37
13 防火管理者選任状況……………	38
14 火災予防条例による届出状況……………	39
15 危険物製造所等施設状況……………	39
16 危険物の許可数量と類別……………	40
17 危険物製造所等の申請届出状況……………	41
18 危険物施設の許可区分構成比……………	42
19 危険物施設の市町別構成比……………	42

【 通 信 編 】

1 消防通信施設状況……………	43
2 無線電話機設置状況……………	44
3 消防団無線電話機設置状況……………	45
4 システム系統図……………	46
5 通信指令室系統図……………	47
6 119番等受信状況……………	48
7 災害情報問い合わせ状況……………	48
8 口頭指導実施状況……………	48
9 年間気象状況……………	49

【 救 急 編 】

1	過去5年間の救急出動件数の推移	50
2	市町別等の救急出場状況	51
3	月別救急出動状況	52
4	搬送人員の区分（年齢区分・ 傷病程度・事故種別）	53
5	搬送先医療機関の状況（休日・昼夜別）	54
6	転院搬送人員	55
7	覚知時間帯別救急出動件数	56
8	覚知曜日別救急出動件数	56
9	現場到着所要時間別出動件数	56
10	医療機関収容所要時間別搬送人員	56
11	搬送人員の性別割合	56
12	ドクターヘリの状況	56
13	救急救命処置の実施状況等	57
14	心肺停止症例に関連する数値	57
15	応急手当普及啓発講習の状況	57

【 消 防 団 編 】

1	歴代消防団長・方面隊長	58
2	消防団員の報酬（年額）	59
3	消防団員の出勤手当	59
4	消防団員の退職報償金受給状況	60
5	消防団員の配置状況（実員）	60
6	消防団員の新任状況	60
7	消防団員の退職状況	60
8	消防団員の職業別状況	61
9	消防団員の勤続状況	62
10	消防団員表彰状況	63
11	消防団員の年齢状況	64
12	消防団の出動状況	66
13	消防団員一般教育訓練、訓練実施状況	66
14	消防団車両・ポンプ一覧表	67
15	消防団小型動力ポンプ一覧表	68
16	消防団幹部名簿	69

■管内位置図



■十日町地域広域事務組合の位置・地勢

この圏域は新潟県の南西部に位置し、東西 32 km、南北 43km の広がりを持ち、総面積は 760.6km²で新潟県の 6.1%を占める地域です。周囲は長岡圏、柏崎圏、上越圏、魚沼圏及び長野県の北信圏に隣接し、圏域の東側は、魚沼圏との境界の山脈台地に標高 2,145mの苗場山を中心とする山岳地帯に連なり、西側は上越圏との境界に標高 540mの鍋立山があります。河川は、圏域の中央部を信濃川が長野県境より北に貫流し、県の主要な河川である渋海川、清津川、中津川等が流れ、圏域の最南東部は清津峡をはじめとして、上信越高原国立公園に指定されているほか、信濃川によってもたらされた雄大な河岸段丘は変化に富んで美しい自然環境をなしています。



■面積・人口・世帯数

管内各市町村の現状をお知らせいたしますので、調査等の参考にしてください。

区 分	面 積 (Km ²)	令和2年国勢調査(確定)		令和7. 3. 31基準		令和6. 12. 31基準		令和5. 12. 31基準	
		人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数	人 口	世帯数
十日町市	590.39	49,820	18,012	46,646	19,296	47,126	19,372	48,132	19,464
十日町地域	212.77	—	—	32,758	13,490	33,093	13,548	33,755	13,573
川西地域	73.55	—	—	5,433	2,154	5,476	2,152	5,603	2,167
中里地域	128.97	—	—	4,380	1,736	4,440	1,745	4,526	1,756
松代地域	90.47	—	—	2,502	1,160	2,539	1,173	2,617	1,202
松之山地域	86.31	—	—	1,573	756	1,578	754	1,631	766
津 南 町	170.21	8,989	3,119	8,374	3,405	8,865	3,453	8,865	3,453
合 計	760.60	58,809	21,131	55,020	22,701	55,991	22,825	56,997	22,917

十日町地域広域事務組合消防のあゆみ

昭和47年		6月 1日	日赤救急車(トヨタコムーター)を津南分遣所に配置
4月20日	十日町地域広域事務組合設立許可(県知事)		
	4 市町村(十日町市、川西町、津南町、中里村)で、と畜場、福祉センター事務を共同処理		
4月24日	十日町地域広域市町村圏協議会の事業として、昭和 48 年 4 月を目標に一部事務組合方式で広域消防の実施が決定(広域市町村圏振興整備計画)		
10月11日	広域消防に関する消防本部・署設置義務政令指定申請書を、県を通じ自治省に提出		
昭和48年			
4月 1日	十日町地域広域事務組合規約変更県知事許可により、既設十日町市消防本部・署を廃止し組合消防本部・署、消防団 4 団を設置 1 本部 1 署(職員 49 人)、4 団(団員 3,237 人) 機械施設等は十日町市消防本部・署、各市町村消防団施設を引き継ぎ、広域消防業務開始 警防課へ救急係を新設		
4月 5日	自治省告示第 74 号により、川西町、津南町、中里村に消防本部・署、設置義務に関する政令指定		
9月 1日	職員 16 人採用増員(総員 65 人)		
10月 1日	川西、津南両分遣所が職員各 9 人で業務開始 消防ポンプ自動車(ニッサン)購入川西分遣所に配置		
10月23日	県単補助事業により救急車(トヨタコムーター)購入本署に配置		
10月25日	消防ポンプ自動車(ニッサン)購入津南分遣所に配置		
11月 1日	日本自動車工業会から救急車(トヨタコムーター)の寄贈を受け川西分遣所に配置		
11月 9日	川西分遣所庁舎竣工(川西町霜条地内)		
11月20日	津南分遣所庁舎竣工(津南町正面地内)		
昭和49年			
5月 1日	職員 4 人採用、分遣所各 11 人(総員 69 人)		
6月 1日	総務課庶務消防団係を庶務係と消防団係へ分割、予防課を新設し警防課予防係と救急係を予防課へ移管		
6月29日	自治省告示第 131 号により、川西町、津南町、中里村救急業務に関する政令指定		
10月 4日	十日町地域消防本部・署庁舎竣工 (十日町市川治内後地内)		
10月14日	消防本部にC型緊急指令装置、構内電話交換設備設置工事完了		
10月26日	指令車(マツダルーチェバンデラックス)の寄贈を受け川西分遣所に配置		
昭和50年			
5月 1日	職員 3 人増員、分遣所各 13 人(総員 72 人)		

6月11日	本署に気象観測収録装置設置	昭和62年	
7月23日	本署日赤救急車(ニッサンシビリアン)更新	1月 1日	本署に救助分隊を編成
11月17日	津南町消防団が水防功労により北陸地区治水会から表彰される	4月 1日	通信救急課廃止し、警防課へ通信係と救急係統合
12月14日	本署連絡車(スバルレックス)更新	8月 3日	本署日赤救急車(トヨタ 4WD)更新
昭和58年		10月14日	本署泡放射砲積載車(三菱キャンター4WD)更新
4月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 78 人)	昭和63年	
5月14日	本署指揮連絡車(スバルレオーネ)更新	8月 7日	第 39 回新潟県消防大会を十日町市で開催(ポンプ車操法の部で十日町市消防団優勝)
6月 1日	十日町市消防団、災害の発生防止、復旧事業促進の功により全国防災協会から表彰される	8月26日	日本消防協会から指令広報車(三菱ランサーバン DX)の寄贈を受け津南分遣所に配置 日本消防協会から小型動力ポンプ付積載車(トヨタハイエース)の寄贈を受け川西町消防団に配置
6月 5日	十日町市消防団、水防功労により信濃川・魚野川水防連絡会から表彰される	10月12日	第 11 回全国消防操法大会(於:横浜市) 十日町市消防団第 16 分団がポンプ車操法に出場
8月 2日	津南分遣所日赤救急車(ニッサンキャラバン)更新		
9月 9日	川西分遣所指揮連絡車(ニッサンダットサン)更新		
12月 9日	本署訓練塔建設工事竣工	平成元年	
昭和59年		3月20日	本署屈折はしご付消防ポンプ自動車更新(30m級はしご付消防自動車〔東急メッツDL30h 型〕)
1月14日	本署化学車更新、旧化学車津南分遣所へ配置換え	4月 1日	職員 4 人退職、4 人採用(総員 81 人) 予防課へ危険物係を新設 新潟県消防学校へ 1 人教官派遣(6 か月)
2月10日	中里村消防団、日本消防協会から表彰旗受章	7月28日	本署指令車(ニッサングロリア)更新
3月25日	広域事務組合発足 10 周年記念式典挙行	8月20日	第 40 回新潟県消防大会(於:朝日村) 小型ポンプ操法の部で中里村消防団優勝
4月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 78 人)	12月10日	本署訓練塔補強増設
4月18日	職員 1 人退職(総員 77 人)	12月22日	本署消防ポンプ自動車 2 号車(三菱キャンター 4WD A-2 級)更新
11月 6日	津南分遣所消防ポンプ自動車(ニッサンサファリ A-2 級)更新	平成 2年	
12月17日	中里村消防団、消防庁長官から災害現場功労表彰受章	2月14日	川西町消防団、日本消防協会から表彰旗受章
昭和60年		3月20日	緊急指令装置Ⅱ型(NEC)更新
2月 8日	十日町市消防団、日本消防協会から竿頭授受章	4月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 81 人)
4月 1日	職員 4 人採用(総員 81 人) 地域消防史編纂プロジェクトチーム編成 総務課中里詰所を廃止し、中里消防係新設	6月30日	職員 1 人退職(総員 80 人)
9月 1日	中里村消防団、災害現場功労により内閣総理大臣から表彰される	9月 7日	津南分遣所救急車(ニッサンホームー4WD)更新
9月 2日	川西分遣所消防ポンプ自動車(イスズエルフ A-2 級)更新	10月27日	第 1 回消防ひろば開催
昭和61年		12月20日	緊急情報システム、無線統制台設置
4月 1日	職員 3 人退職、3 人採用(総員 81 人)	12月27日	本署消防ポンプ自動車 3 号車(三菱キャンター 4WD A-2 級)更新
8月 7日	川西分遣所日赤救急車(イスズファエーゴ 4WD)更新	平成 3年	
12月10日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 81 人)	2月28日	職員 1 人退職(総員 79 人)
		3月 6日	中里村消防団、消防庁長官から竿頭授を受章
		4月 1日	職員 1 人退職、5 人採用(総員 83 人)

8月 1日	職員 1 人採用(総員 84 人)	平成 9年 3月24日	津南分遣所を卯ノ木地内に移転・新築竣工
平成 4年 3月25日	本署救助工作車(Ⅱ型三菱ふそう 8t級)更新	4月 1日	国のモデル広域指定を受け、本部・署の組織を一部変更し東頸城郡松代・松之山両町の消防事務を共同処理することとなり、1 市 4 町 1 村で構成する新たな広域消防業務を開始 上越地域消防事務組合から東頸消防署松代分遣所・松之山分遣所の施設、車両等の譲渡を受け、名称を「十日町地域消防署松代分遣所・松之山分遣所」として編入 津南分遣所は卯ノ木地内に庁舎を新築し中里詰所との機能統合を図り「十日町地域消防署南分署」とし、川西分遣所は「西分署」と改称 新たに職員 23 人を採用(うち派遣職員 5 人) 松代・松之山両町消防団の機械施設等を引き継ぎ、消防団 2 団を編入 1 本部 1 署 2 分署 2 分遣所、6 消防団(職員 113 人、消防団員 3,156 人)体制
4月 1日	職員 2 人退職、3 人採用(総員 85 人)		
6月15日	中里詰所連絡車更新(スバルレガシー 4WD)		
8月25日	消防だより「火の用心」創刊号を発行		
12月29日	十日町市消防団本部分団に資機材搬送車(ダイハツハイゼット 4WD)配置		
平成 5年 3月25日	津南分遣所消防ポンプ自動車(三菱キャンター 4WD A-2 級)更新		
4月 1日	職員 4 人採用(総員 89 人) 完全週休二日制(週 40 時間勤務)実施 消防署の勤務体制を三交替制とし試行開始 総務課文書広報係、警防課訓練救助係新設		
6月 4日	本署指令 2 号車(スズキエスクード)更新		
8月 5日	川西分遣所日赤救急車(トヨタハイエース 4WD)更新		
8月25日	川西分遣所指揮連絡車(トヨタランドクルーザー 4WD)更新		
9月 1日	十日町地域広域事務組合 20 周年記念事業として、組合章、組合旗、マスコットマーク制定		
10月 1日	広域事務組合発足 20 周年記念事業として記念誌「鎮(しずめ)」発行		
平成 6年 4月 1日	職員 2 人退職、1 人採用(総員 88 人)		
5月31日	職員 1 人退職(総員 87 人)		
7月28日	本署救急 1 号車(トヨタアンビュランス 4WD)更新		
8月 1日	職員 2 人採用(総員 89 人)		
8月26日	本署連絡 2 号車(三菱ミニキャブ 4WD)更新		
9月30日	川西分遣所庁舎増改築工事竣工		
10月27日	本署訓練場造成工事竣工		
平成 7年 3月 3日	川西町消防団、消防庁長官から竿頭綬を受章		
4月 1日	職員 1 人採用(1 人退職、総員 89 人)		
11月 1日	職員 1 人採用(総員 90 人)		
12月25日	本署連絡 1 号車(ニッサンホームー)更新		
平成 8年 2月14日	本署化学車(Ⅱ型イズフオワード 4WD)更新		
4月 1日	職員 3 人退職、3 人採用(総員 90 人) 家畜指導診療所が組合へ編入 組合総務課事業係を廃止		
12月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 90 人)		
		平成 10年 1月25日	西分署消防車(ニッサンアトラス A-2 級)更新
		3月31日	日本自動車工業会から高規格救急車(トヨタ HIMEDIC 型)の寄贈を受け本署に配置
		4月 1日	職員 2 人退職、5 人帰属、7 人採用(総員 113 人)
		11月26日	南分署救急車(トヨタアンビュランスⅡ-B型 4WD)更新
		平成 11年 4月 1日	職員 2 人採用(2 人退職、総員 113 人)
		6月11日	十日町ライオンズクラブから赤バイ 2 台(ヤマハ セロー 225)の寄贈を受け本署に配置
		6月30日	松代分遣所査察広報車(ニッサンウイングロード 4WD)更新
		12月16日	松代分遣所救急車(トヨタグランビアⅡ-B型 4WD)更新
		平成 12年 1月17日	松之山分遣所消防車(三菱キャンター CD-I 型 4WD)更新

上越地域消防事務組合から譲渡を受けた車両	
＜松代分遣所＞	
消防車	(イズベルフ 250 スーパー)
救急車	(トヨタハイエース)
指揮連絡車	(スズキジムニー)
＜松之山分遣所＞	
消防車	(ニッサンサファリ)
救急車	(トヨタハイエース)
指揮連絡車	(スズキエブリー)

4月 1日	職員 6 人退職、6 人採用(総員 113 人) 組合総務課と畜場を閉場	8月12日	十日町ロータリークラブから救急訓練人形 7 体 寄贈を受ける
6月 1日	十日町大火 100 周年記念総合防災訓練実施 「消防史」発行	10月28日	本署に指揮車(マツダボンゴ)を配置
7月19日	本署指令車(ニッサンセドリック 4WD)更新 インパルス(新消火システム)2 台配備	11月28日	日本損害保険協会から高規格救急車(トヨタ HIMEDIC 型)の寄贈を受け南分署に配置
8月21日	分署日赤救急車(トヨタグランビアⅡ-B型 4WD)更新	平成18年	
平成13年		4月 1日	職員 3 人退職、3 人採用(総員 115 人) 新潟県消防学校教官派遣解除 予防課へ査察指導係を新設、警防課通信指令 室を総務課へ移管、警防課救急救助係を廃止 し、救急係と救助装備係を新設
4月 1日	職員 4 人採用(3 人退職、総員 114 人) 新潟県消防防災航空隊へ 1 人派遣(2 年間) 警防課へ通信指令室を設置	4月10日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 115 人)
7月18日	松代分遣所消防車(日野CD-Ⅰ型 4WD)更新	10月 1日	十日町市消防団女性部発足 (入団 14 人)
7月26日	本署救急 2 号車(トヨタグランビアⅡ-B型 4WD) 更新	12月19日	本署消防 1 号車(日野CD-Ⅰ型 4WD)更新 ※緊急消防援助隊仕様
8月22日	南分署指令 1 号車(ニッサンウイングロード 4WD)更新	平成19年	
平成14年		4月 1日	職員 3 人退職、3 人採用(総員 115 人) 組合企画振興課を廃止し総務課へ企画振興係 新設 総合福祉センターを津南町へ移管
4月 1日	職員 4 人退職、4 人採用(総員 114 人)	4月 6日	新潟県消防職員意見発表会(於:佐渡市)で最 優秀賞を受賞
8月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 114 人)	11月29日	本署救急 1 号車(トヨタハイエース)更新 ※緊急消防援助隊仕様、高規格救急車
平成15年		平成20年	
2月 7日	十日町市消防団、日本消防協会から特別表彰 「まとい」受賞	2月12日	十日町市消防団十日町方面隊本部分団第2部 第 1 班「防火幕」の歴史に幕、多目的災害対応 班へ
4月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 114 人) 新潟県消防防災航空隊派遣解除	2月29日	十日町市消防団が日本消防協会から防災活動 車(ダイハツハイゼット)の寄贈を受け、十日町 連絡 3 号車とし本署に配置
平成16年		3月21日	十日町市消防団十日町方面隊本部分団のポン プ自動車(日野 CD-Ⅰ型 4WD)更新
2月 1日	広域事務組合発足 30 周年記念事業として記念 誌「鎮(しずめ)」発行	4月 1日	職員 8 人退職、8 人採用(総員 115 人) 警防課警防施設係と救助装備係を統合し、警 防係新設、警防課訓練指導係を廃止し救助係 新設
2月26日	十日町地域メディカルコントロール協議会設立	7月 1日	平成 19 年度退職者から十日町地域消防本部・ 署旗の寄贈を受ける
4月 1日	職員 3 人退職、2 人採用(総員 113 人) 新潟県消防学校へ 1 人教官派遣(2 年間)	8月 3日	第 59 回新潟県消防大会を十日町市で開催
7月13日	平成 16 年 7 月新潟・福島豪雨 新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要 請、災害派遣人員 37 人(三条市ほか)	10月27日	新潟県立十日町病院と救急現場における救急 業務に関する協定書締結
平成17年		平成21年	
4月 1日	5 市町村(十日町市、川西町、中里村、松代町、 松之山町)が合併し、新十日町市誕生 合併に伴い旧市町村消防団を統合し、十日町 市消防団 5 方面隊体制とした 職員 7 人採用(5 人退職、総員 115 人) 総務課文書広報係、警防課警防係、機械係、 救急係、訓練救助係を廃止し、警防装備係、救 急救助係、訓練指導係を新設	2月 5日	本署消防 2 号車(日野 CD-Ⅱ型 4WD CAFS 搭載)更新 ※緊急消防援助隊仕様
5月20日	高機能消防指令センター(Ⅰ型)運用開始	3月23日	消防団協力事業所表示制度を導入 (認定事業所表示証交付式開催)
7月28日	松之山分遣所日赤救急車(トヨタグランビアⅡ- B型 4WD)更新		

4月 1日	職員 5 人退職、6 人採用(総員 116 人) 津南町消防団女性部発足(入団 10 人) 総務課通信指令室を警防課へ移管、企画広報係新設、警防課救助係を廃止し消防署防災救助係新設	平成26年 4月 1日	職員 4 人採用(職員 2 人退職、総員 116 人) 南分署 3 人増員(20 人)、西分署 3 人減員(13 人) 消防庁舎建設準備室を建設事業室へ名称変更
9月20日	「消防ひろば」が 20 回を迎える	11月14日	消防救急デジタル無線局舎、十日町市堀之内城山地内に竣工
11月24日	西分署日赤救急車を高規格救急車(トヨタハイエース)に更新	平成27年 4月 1日	職員 5 人採用(職員 6 人退職、総員 115 人) 新潟県消防防災航空隊へ 1 人派遣(3 年間)
12月10日	泡放射砲積載車を廃車し、資機材搬送車(日野レンジャー4WD)を本署に配置	10月31日	新消防本部庁舎、四日町新田地内に竣工
平成22年 4月 1日	職員 5 人退職、5 人採用(総員 116 人) 新潟県消防学校へ 1 人教官派遣(2 年間) 消防本部総務課に消防庁舎建設準備室、企画事業係を新設	平成28年 1月29日	本署化学車(日野レンジャー)更新 ※緊急消防援助隊仕様
4月15日	本署救急2号車(高規格救急車、トヨタハイエース)更新 ※緊急消防援助隊仕様	3月31日	川治内後地内の消防本部と霜条地内の西分署を閉庁 総務課消防庁舎建設事業室を廃止
8月25日	総務省消防庁から多目的防災活動車貸与。十日町市消防団十日町方面隊本部分団へ配置	4月 1日	新消防本部庁舎運用開始(四日町新田地内) 職員 1 人退職、1 人採用(総員 116 人) 消防救急無線のデジタル化運用開始 総務課庶務広報係を廃止し庶務係と企画広報係新設、警防課救急管理係を廃止し警防課救急室と救急係新設、消防署救急救助課と救急指導係廃止
10月28日	松之山分遣所救急車(高規格救急車、トヨタハイエース)更新 ※緊急消防援助隊仕様	5月 2日	十日町地域救急ステーション運用開始 (県立十日町病院内)
平成23年 4月 1日	職員 3 人採用(職員 5 人退職、総員 114 人) 松代・松之山分遣所を統合、十日町市松之山小谷地内に「しぶみ分署」を開署し、業務を開始(分署長・副分署長・当直各 5 人体制) 警防課救急係を廃止し救急管理係新設、消防署へ救急救助課と救急指導係新設、総務課庶務係と企画広報係を廃止し庶務広報係新設	11月 2日	南救急 1 号車(トヨタ ハイエース)更新
11月 9日	十日町地域消防本部、東日本大震災において現場での救急救助活動などの功績により、総務大臣表彰受賞	12月26日	連絡 2 号車廃車に伴い川西方面隊中仙田積載車(日産アトラス)を本署に所管替え、連絡 2 号車とする
11月25日	十日町市消防団、平成 23 年新潟・福島豪雨に際し水防活動の功績により、国土交通大臣表彰受賞	12月31日	消防署訓練塔竣工
11月26日	本署指揮連絡 1 号車(トヨタハイエース)更新	平成29年 2月22日	本署指令車(トヨタ エスクァイア)更新
平成24年 4月 1日	新潟県消防学校教官派遣解除 職員 4 人退職、4 人採用(総員 114 人)	3月13日	職員 1 人退職(総員 115 人)
12月 7日	本署救助工作車(日野レンジャー)更新 ※緊急消防援助隊仕様	4月 1日	職員 6 人退職、5 人採用(総員 114 人)
平成25年 4月 1日	職員 3 人採用(職員 3 人退職、総員 114 人)	10月 6日	本署救急 1 号車(トヨタ ハイエース)更新
7月 1日	職員 1 人退職に伴い 1 人採用(総員 114 人)	11月16日	十日町はしご 1 号車(日野屈折はしご付消防ポンプ自動車)更新
9月 1日	新潟県・十日町市総合防災訓練を十日町市で開催	平成30年 4月 1日	新潟県消防防災航空隊派遣解除 職員 1 人退職、2 人採用(総員 115 人) 南分署 3 人増員(23 人)、小隊体制とし警防分隊と救急分隊を編成、しぶみ分署 3 人減員(14 人)
10月28日	広域事務組合発足 40 周年記念事業として講演会を開催し、記念誌「鎮(しずめ)」を発行	7月 1日	職員 1 人退職、1 人採用(総員 115 人)
		8月 1日	㈱玉垣製麺所と災害等における物資の供給に関する協定を結ぶ

平成31年	
4月 1日	職員 5 人退職、5 人採用(総員 115 人) 救急ステーション救急 3 号車(トヨタハイエース) 更新
令和元年	
7月 1日	一般財団法人ドローン普及協会と「災害時における無人航空機による支援協力に関する協定」 を締結
9月 8日	「消防ひろば」が 30 回を迎える
12月 3日	指揮車(災害対応特殊消防車、トヨタハイエース)更新
12月 6日	職員1人退職(総員114人)
令和 2年	
4月 1日	職員7人退職、5人採用、2人再任用(総員114人)
11月30日	十日町地域消防ヘリポート竣工
12月 5日	消防だより「火の用心」100号発行
12月17日	しぶみ救急 1 号車(トヨタ ハイエース)更新
令和 3年	
4月 1日	職員 4 人退職、3 人採用、1 人再任用(総員 115 人) 十日町地域消防ヘリポート運用開始
12月 5日	一般財団法人オフロードビークル協会と「災害時におけるオフロードビークルを活用した支援協力に関する協議書」を締結
令和 4年	
3月24日	十日町救急 2 号車(日産 パラメディック)更新
4月 1日	職員 3 人退職、2 人採用(総員 114 人)
令和 5年	
4月 1日	職員 3 人退職、1 人採用、1 人再任用(総員 113 人)
10月 3日	十日町地域広域事務組合発足 50 周年記念事業として講演会を開催し、記念誌「鎮(しずめ)」 を発行
令和 6年	
3月15日	十日町地域消防署南分署改修工事終了(竣工)
4月 1日	職員 1 人退職、2 人採用、1 人再任用(総員 114 人)
令和 7年	
4月 1日	職員 5 人退職、3 人採用(総員 112 人)

十日町地域広域事務組合消防災害年表

昭和49年		9月12日	台風18号により清津川が増水、13日に清津川橋が崩落し国道117号線が通行止めとなる。また国道405号線樽田、小島間で土砂崩れ、信濃川付近の集落小島・巻下・足滝・反里の堤防が決壊
1月23日	豪雪による飯山線不通のため、消防団57人が除雪の応援に出動		
昭和51年			
1月21日	上郷の信濃川にかかる吊り橋が雪の重みで中央部から切れる、通行中の1人は無事	9月13日	台風18号により信濃川の出水、信濃川堤防の被害が発生
1月22日	雪崩のため秋山郷の80戸が停電	昭和58年	
	信越県境、田沢と鹿渡間で大規模な雪崩が発生	9月26日	台風10号による豪雨のため各地で河川が氾濫
4月15日	下条平地内で融雪水と降雨による土砂崩れ	9月30日	台風10号による信濃川出水、下島地内で堤防決壊15m、作業中の消防団員1名死亡
	幅10m、長さ15m、厚さ2m、約300m ³	11月	豪雪により災害救助法適用
12月	豪雪により災害救助法が適用		最大積雪深 3m63cm
	最大積雪深 3m14cm、負傷者11名		死者6名、負傷者1名
昭和52年			避難勧告15世帯
2月14日	飯山線越後田中と津南間で雪崩が発生し、列車が乗り上げて1両が脱線する		豪雪対策本部設置
3月14日	横手の県道で地滑りが発生、約30mにわたって根こそぎ流され、903戸が停電	昭和59年	
昭和53年		1月28日	県災害救助条例適用、対象22世帯
2月5日	清津峡で雪崩、旅館を直撃、1棟全壊	2月7日	災害救助法の適用、対象22世帯
6月26日	信濃川支流が増水決壊。国県道、鉄道が不通、水害対策部設置	2月9日	雪崩災害危険による避難勧告、1世帯2人
昭和54年		2月9日	清津峡温泉で大規模な雪崩発生、温泉旅館2棟全壊、3棟損壊、死者5名、負傷者2名
9月18日	駒返で火災、放火により工場併用住宅1棟全焼、焼死者4名、負傷者1名	12月	豪雪により災害救助法適用
昭和55年			最大積雪深 2m95cm
2月17日	所平の町道で雪崩が発生、車両1台大破	7月7日	死者1名、負傷者13名
3月8日	樽沢地内で土砂崩れ発生、作業小屋と自動車5台が大破、4月2日までに5回土砂崩れ発生	8日	豪雪対策本部設置
4月7日	六箇二ツ屋地内で土砂崩壊、羽根川をふさぎ県道を超えて住宅2棟全壊	11月	豪雪により県災害救助条例適用
12月	豪雪により災害救助法適用	昭和60年	
	最大積雪深 3m74cm	7月7日	8日0時から12時までの降水量が104mmに達し、鉢で土砂崩れが発生
	死者1名、負傷者1名	8日	豪雪により県災害救助条例適用
	避難勧告13世帯	11月	最大積雪深 3m24cm
	豪雪対策本部設置	昭和61年	死者1名、負傷者6名
昭和56年		1月27日	願入地内で雪崩により牛舎崩壊
1月23日	豪雪に関連した事故により3名死亡、雪崩災害危険による避難勧告、8世帯37名	5月1日	川治内後でキャブタイヤケーブルの短路から火災、住宅及び作業所3棟全焼、2棟部分焼
2月12日	飯山線津南駅近くで雪崩、運航中の列車が脱線、乗客17名は無事	平成2年	
昭和57年		12月27日	本町4丁目の複合用途防火対象物でビル火災発生、はしご車が出動し1棟部分焼
4月15日	野中地内で融雪により土砂が約2500m ³ 移動、家屋一部破損	平成4年	
		12月27日	上郷地区で地震、M4.5の揺れで学校や民家に被害(当時は震度計未設置)
平成6年		4月8日	関根第2地内の十日町スキー場で土砂崩れ発生、市道通行不能

平成 7年 5月16日 7月11日 7月17日 平成 8年 2月 1日 平成13年 1月4日 平成16年 7月13日 10月23日 平成17年 10月25日 平成18年 1月 6日 1月12日	樽沢地内で土砂崩れ発生、市道通行不能 梅雨前線により市内全域に大雨が降り、信濃川警戒水位を 78cm 上回り、河川敷が冠水する、一部市道が通行止めになり、停電(津池、大池、赤倉地区)も起きた。 堤防の決壊 1 カ所 溜池の越水 1 カ所 床下浸水 11 戸 土砂崩れ 3 カ所 土砂崩れのため住宅 1 戸一部に損害 伊友地内大雨で曾根川の堤防が決壊、木落地内で川が増水し町道が決壊 大雪のため、県市道が一部交通止め、路線バス・鉄道も一時運転を見合わせる 塩ノ又地区が孤立集落となる、県災害救助条例適用 最大積雪深 3m30cm 負傷者 5 名 中越地方を中心とする最大震度5弱の地震で、家屋や公共物に被害 平成16年7月新潟・福島豪雨 新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請、災害派遣人員37人(三条市ほか) 新潟県中越地震 午後5時56分中越地方を最大震度7の激震が襲う(十日町地域管内では最大震度6強) 断続的に余震が続き、同年12月28日までの間に有感地震は877回を超えた ▼消防本部震災体制 消防計画における地震第二次配備体制自動発令、消防本部震災指揮本部の設置 本署 79 人、西分署 12 人、南分署 8 人、松代分遣所 6 人、松之山分遣所 6 人の体制で、交替で休憩をとりながら 24 時間勤務 10 月 29 日 17 時から 12 月 17 日 17 時まで順次勤務体制を変更して非常体制を継続し、その後通常体制に移行 ▼災害発生状況(10/23～10/31) 火災件数 十日町市 2 件 救助件数 十日町市 4 件、松代町 1 件 救急件数 267 件 樽沢集落が、中越地震から1年ぶりに避難指示解除 豪雪により災害救助法適用(十日町市、津南町) 平成 18 年豪雪の各地最高積雪	2m77cm (消防本部) 3m13cm (十日町試験地) 3m62cm (津南町役場) 4m42cm (松之山支所) 平成19年 7月16日 新潟県中越沖地震 午前 10 時 13 分、上中越沖を震源とする M6.8 の地震が襲う 柏崎地域を中心に甚大な被害が発生(十日町地域管内最大震度 5 強) ▼震災警防本部の設置 新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請 救助工作車、ポンプ車、タンク車、高規格救急車、泡放射砲積載車にて出動 10 日間で 16 隊、延べ 63 人が活動にあたる ▼災害出動状況(7 月 16 日発災当日) 消防署 19 台 108 人 消防団 48 台 175 人 平成23年 1月 豪雪により災害救助法適用(十日町市、津南町) 平成 23 年豪雪の各地最高積雪 1月31日 3m10cm(津南町役場) 1月 1日 2m52cm(消防本部) 2m90cm(十日町試験地) 3m69cm(松之山支所) 3月11日 東北地方太平洋沖地震 午後 2 時 46 分宮城県沖を震源とする M9.0 の地震が発生、東北地方を中心に甚大な被害 新潟県緊急消防援助隊として、救急隊 3 人、救急支援隊 2 人が宮城県石巻市に出動、第8、10、13 次隊にわたり、延べ17 人を派遣、十日町病院DMATチーム(医師 1 人、看護師 1 人、連絡調整員 1 人)の搬送として、連絡 1 号車で隊員 2 人が福島医大へ出動、福島県内の入院患者を新潟県内の医療機関へ搬送するため、新潟県相互応援協定に基づき新潟県消防学校で患者を引き継ぎ、県内病院へ搬送(3/19～20) 3月12日 新潟・長野県境地震 午前 3 時 59 分、長野県北部を震源とする M6.7 の地震発生。十日町市中里・松代・松之山・津南町で震度 6 弱を観測。同地区を中心に大きな被害を生じる ▼災害出動状況 火災 1 件、救助 7 件、調査 55 件
--	--	--

7月27日	平成 23 年新潟・福島豪雨 ▼降り始めからの累計雨量(7/27～7/30) 中心市街地(地域振興局) 493 mm 市内最大雨量(八箇峠) 565 mm ▼1時間の最大雨量 中心市街地(地域振興局) 120 mm ▼市内最大時間雨量(小泉) 121 mm (29 日 19 時 50 分～20 時 50 分) ▼出動状況(7/28～8/2) 消防本部・署の災害出動 82 件 消防本部・署の出動延人員 415 人 消防団の出動延人員 2,057 人		
平成24年		令和 4 年	
1月	豪雪により災害救助法が適用(十日町)	1月10日	豪雪により災害救助法適用(十日町市)
2月	豪雪により災害救助法が適用(津南町) ▼平成 24 年豪雪の各地最高積雪 2 月 11 日 2m90 cm(消防本部) 3m02 cm(十日町試験地) 3m29 cm(津南町役場) 4m17 cm(松之山支所)		▼人的被害 死者 1 人、重症 10 人、軽症 29 人 ▼令和 4 年豪雪の各地最高積雪 1 月 10 日 2m70cm(消防本部) 2m87cm(十日町試験地) 2 月 19 日 3m70cm(松之山支所)
5月24日	南魚沼市欠之上地内の八箇峠トンネル工事現場で爆発事故が発生、新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請、災害派遣人員 34 人	令和 5 年	
平成25年		2月23日	豪雪により災害救助法適用(十日町市) 豪雪により災害救助法適用(津南町)
1月	豪雪により災害救助法が適用(十日町市) 豪雪により災害救助法が適用(津南町) ▼平成 25 年豪雪の各地最高積雪 2月22日 2m54cm(消防本部) 3m88cm(松之山支所) 2月25日 2m89cm(十日町試験地) 2月26日 3m06cm(津南町役場)		▼人的被害 死者 3 人、重症 9 人、軽症 14 人 ▼令和 5 年豪雪の各地最高積雪 2 月 23 日 1m77cm(十日町試験地) 2 月 24 日 2m76cm(松之山支所)
平成27年		令和 6 年	
9月 7日	関東・東北豪雨	1月 1日	能登半島地震 16 時 10 分石川県能登半島を震源とする M7.6 の地震発生、日本海側を中心に甚大な被害 新潟県緊急消防援助隊として、石川県輪島市を中心に出動、第 1、2、3、4 次隊にわたり、延べ 16 人を派遣、県内の他消防本部と協力し、土砂崩れが発生した現場での捜索活動を実施(1/1～1/15)
9月13日	新潟県緊急消防援助隊として、消防隊 6 人が茨城県常総市に出動	令和 7 年	
平成28年		2月 9日	豪雪により災害救助法適用(十日町市)
12月22日	糸魚川市駅北大火発生 ▼新潟県広域消防相互応援協定に基づく出動要請、災害派遣:消火隊 1 隊(人員 13 人)	2月10日	豪雪により災害救助法適用(津南町)
平成30年			▼人的被害 死者 7 人、重症 10 人、軽症 29 人 ▼令和 7 年豪雪の各地最高積雪 2 月 21 日 3m62cm(津南町結束連絡所) 2 月 24 日 3m03cm(十日町試験地) 2 月 24 日 4m24cm(松之山支所)
2月14日	豪雪により災害救助法が適用(十日町市) ▼平成 30 年豪雪の各地最高積雪 2 月 19 日 1m97cm(消防本部) 2m39cm(十日町試験地) 2m89cm(松之山支所)	2月26日	岩手県大船渡市林野火災 13 時 02 分、岩手県大船渡市赤崎町合足地内において大規模な林野火災が発生、周辺の林野、家屋等に燃え広がり、死傷者も発生。岩手県内の消防力では食い止めることができないほどにまで被害が拡大。 翌 27 日、新潟県緊急消防援助隊として、岩手県綾里地区を中心に、第 1、2、3、4 次隊にわたり、延べ 16 人を派遣、県内外の他消防本部と協力し、消火活動を実施(2/27～3/10)
令和元年			
10月13日	台風第 19 号(令和元年東日本台風) 新潟県緊急消防援助隊として、消防隊 5 人が長野市に出動		
令和 3 年			
5月 6日	天水越(信越トレイル)で女性が滑落		

■歴代管理者・消防長

十日町地域広域事務組合管理者

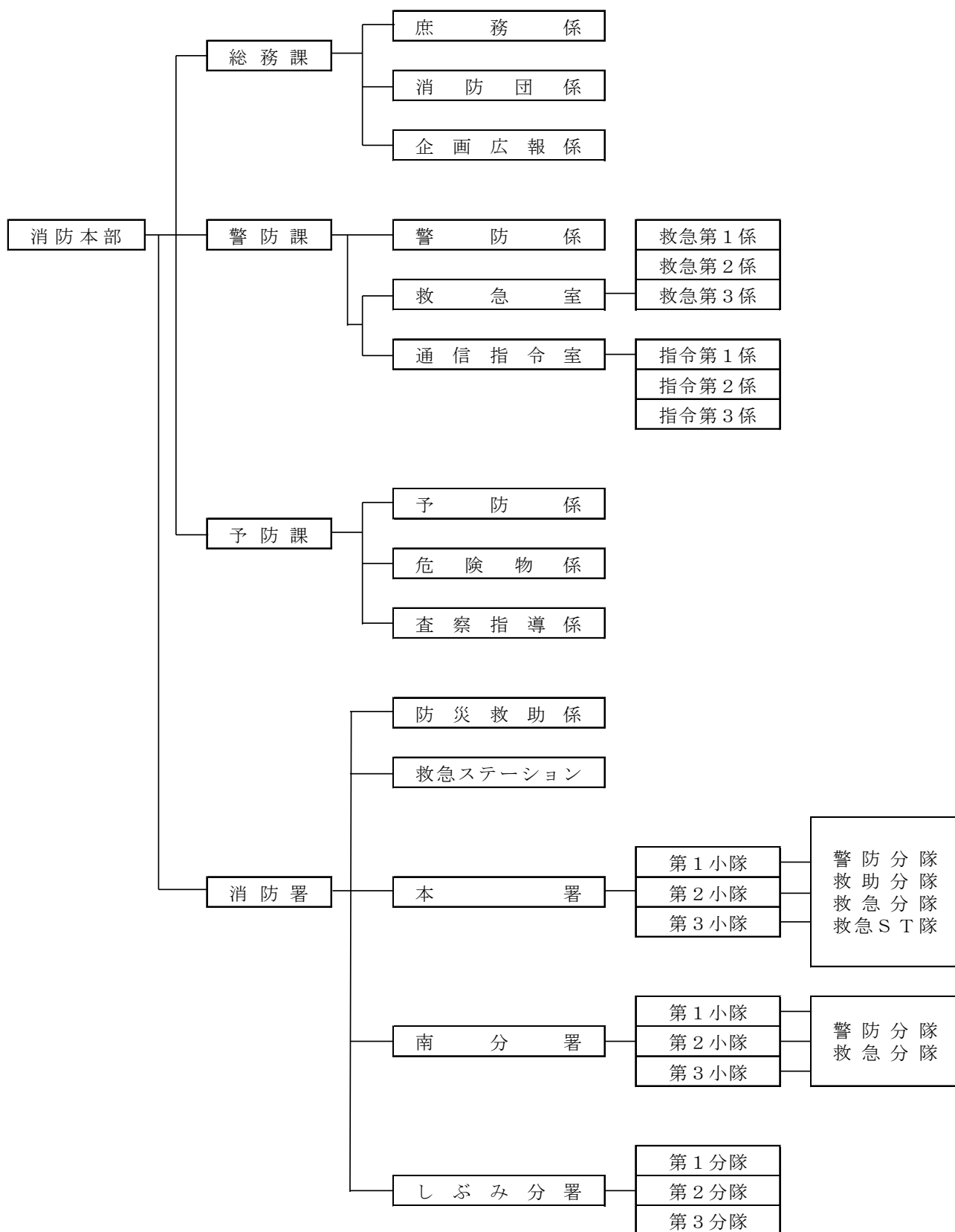
歴代	氏名	就任	退任	備考
初代	春日由三	昭和48. 4. 1	昭和54. 5. 8	十日町市長
二代	諸里正典	昭和54. 5. 9	昭和60. 11. 30	〃
三代	丸山尚政	昭和60. 12. 15	平成 5. 12. 14	〃
四代	本田欣二郎	平成 5. 12. 15	平成13. 12. 14	〃
五代	滝沢信一	平成13. 12. 15	平成17. 3. 31	平成17年4月1日～30日 職務執行代理者津南町長 小林 三喜男
六代	田口直人	平成17. 5. 1	平成21. 4. 30	十日町市長
七代	関口芳史	平成21. 5. 1		〃

十日町地域広域事務組合消防長

歴代	氏名	就任	退任	備考
初代	菅村新蔵	昭和48. 4. 1	昭和48. 7. 5	昭和38年4月1日～昭和48年3月31日 十日町市消防長
二代	春日由三	昭和48. 7. 6	昭和53. 3. 31	組合管理者
三代	上村安輝	昭和53. 4. 1	昭和55. 3. 31	
四代	開発一郎	昭和55. 4. 1	昭和57. 3. 31	
五代	牧野健	昭和57. 4. 1	平成 2. 3. 31	
六代	田村猛	平成 2. 4. 1	平成 6. 3. 31	
七代	村山信一	平成 6. 4. 1	平成 8. 3. 31	
八代	村山悦司	平成 8. 4. 1	平成10. 3. 31	
九代	矢口辰幸	平成10. 4. 1	平成12. 3. 31	
十代	小林勝美	平成12. 4. 1	平成17. 3. 31	
十一代	藤巻誠	平成17. 4. 1	平成19. 3. 31	
十二代	江村久	平成19. 4. 1	平成21. 3. 31	
十三代	山田真一	平成21. 4. 1	平成24. 3. 31	
十四代	山田秀和	平成24. 4. 1	平成25. 3. 31	
十五代	齊藤勝	平成25. 4. 1	平成27. 3. 31	
十六代	田村信二	平成27. 4. 1	平成29. 3. 31	
十七代	根津正一	平成29. 4. 1	令和 2. 3. 31	
十八代	樋口哲生	令和 2. 4. 1	令和 4. 3. 31	
十九代	服部勝志	令和 4. 4. 1	令和 7. 3. 31	
二十代	古澤正男	令和 7. 4. 1		

■十日町地域消防本部の機構図

令和7年4月1日



■消防本部・消防署・分署配置図

令和7年4月1日



しぶみ分署

- ◆消防ポンプ自動車 1台
- ◆高規格救急車 1台
- ◆査察広報車 1台
- ◆小型動力ポンプ 1台



救急ステーション

- ◆高規格救急車 1台



消防本部・署

- ◆消防ポンプ自動車 2台
- ◆化学消防ポンプ自動車 1台
- ◆屈折はしご付消防ポンプ自動車 1台
- ◆非常用消防ポンプ自動車 1台
- ◆救助工作車 1台
- ◆高規格救急車 2台
- ◆指揮車 1台
- ◆資機材搬送車 3台
- ◆査察広報車 1台
- ◆人員搬送車 2台
- ◆赤パ 2台
- ◆小型動力ポンプ 2台
- ◆非常用救急車 1台



南分署

- ◆水槽付消防ポンプ自動車 1台
- ◆高規格救急車 2台
- ◆査察広報車 2台
- ◆小型動力ポンプ 2台